

アブストラクト・テーブル (抄録一覧表)

[Meta-analysis, systematic review]

抄録 番号	著者 年(新しい順)	Patient	Exposure/Intervention	Outcome
				1.

[DB-RCT, RCT, CCT]

抄録 番号	著者 年(新しい順)	Patient	Exposure/Intervention	Outcome

[cohort study, case control study, case series, case report]

抄録 番号	著者 年(新しい順)	Patient	Parameter	Result
3-3-1	Hashimoto K, Kawashima S, Araki M, Iwai K, Sawada K, Akiyama Y 2006	乾燥上顎骨	CBCTとMDCTで撮影された画像で、解剖学的指標の描出を比較する	CBCTの方が、MDCTより解剖学的な指標の描出が有意に良好であった。
3-3-2	Lascale CA, Panella J, Marques MM 2004	8体の乾燥頭蓋骨	CBCT画像上での距離を実測長と比較する。	CBCT画像での測定値は、実測に比較し、小さくなった。頭蓋の内側の基準点間を測定したときに、測定値と実測値に有意差をみとめたが、その他の距離に関しては有意差がなかった。
3-3-3	Hashimoto K, Kawashima S, Araki M, Iwai K, Sawada K, Akiyama Y 2006	乾燥上顎骨	CBCTとMDCTで撮影された画像で、解剖学的指標の描出を比較する	CBCTの方が、MDCTより解剖学的な指標の描出が有意に良好であった。
3-3-4	Schulze D, Heiland M, Thurmann H, Adam G 2004	Rando ファントム	CBCT、MDCTで、臓器線量を比較する	1. CTの線量が最も高かった。CT二機種の線量は同程度であった。 2. NewTom9000の被曝料は、Siremobil Iso-Cの2-3倍であった。 3. Siremobile Iso-Cの線量は、コンベのエックス撮影レベルであった。
3-3-5	Tsiklakis K, Donta C, Gavala S, Karayianni K, Kamenopoulou V, Hourdakis CJ 2005	Rando ファントム	CBCT照射による吸収線量をTLDにて測定する。ICRP60を参考とし、実効線量を算出。シールドなしと有りで比較。	E _{ICRP} は、シールドなしで、0.035mSv、シールドありで、0.023mCvであった。甲状腺と頸髄の吸収線量は、0.32, 1.28mGyが、シールドすると0.18, 0.95mGyになった。
3-3-6	澤田久仁彦, 松本邦史, 加島正浩, 里見智恵子, 萩原芳幸, 新井嘉則	乾燥下顎骨	歯科用CTおよびMDCTのdataより作成した再構成画像での測定値と実測値の比較検討。	A, Bの測定値に関して、MDCTでは実測長と有意差があったが、歯科用CTでは有意差がなかった。

